

『【報告】とある未解決事件について』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『【報告】とある未解決事件について』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『【報告】とある未解決事件について』を読んだことのある10代～50代の男女15名
調査期間	2026年1月14日～2026年1月15日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/houkoku-toarumikaiketuzikennituite/

■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えて下さい。

Q2: 『【報告】とある未解決事件について』を実際に読んだ感想を教えて下さい。

Q1: 年代と性別を教えて下さい。

20代男性	0人
20代女性	0人
30代男性	0人
30代女性	3人
40代男性	0人
40代女性	8人
50代男性	4人
50代女性	0人

Q2: 『【報告】とある未解決事件について』の感想を教えて下さい。

『【報告】とある未 恰の洞察力には感服しました。充士郎が浮かない顔をしているというだけで、そこまで変な動画

解決事件について』1巻	ではありません。だからこそ、刑事達も見落としていたのでしょう。それにもかかわらず、怜は事件の手がかりを掴んだのですから、本当にすごいです。事件の真相に一步近づいた二人ですが、同時に強い不安も感じました。真犯人が誰であれ、越永家の人々が惨殺されたのは事実です。そんな相手に近づけば、当然危険も増すでしょう。警察でもない一般人が踏み込んではいけない領域なのではないかと感じました。
『【報告】とある未解決事件について』1巻	読み始めてすぐに「変な家」等で有名な、雨穴さんの作品に似ているなど感じて、すんなりとストーリーに入り込めて面白かったです。楽しそうな割には、同じ画角の映像しかないホームビデオだったり、明らかに異様でおかしな写真など、初っ端から不穏な空気が漂っているけれど、アイコの存在が判明した時に、恐ろしい真実が待つていて。
『【報告】とある未解決事件について』1巻	記者としてパツとした成果を出せないまま、最後のチャンスとして取材してくるよう言われた一家惨殺事件の現場で、家主の妹と偶然出会い、遺された物をチェックしていくうちに、写真や動画に映る息子の表情の違和感に気づき、愛子先生が犯人かも知れないと導き出されていくところにドキドキしました。一人で真相を探る予定が、妹の証言からジワジワと真実に近づき始めるところがよかったです。
『【報告】とある未解決事件について』1巻	主人公の栗栖怜は名前も髪型も顔立ちも中性的で、男性にも女性にも見えるので、読者が男女どちらでも自身と重ねやすく、読みやすいと感じました。また、10年前に起きた未解決事件にはミステリアスな部分が多く、真相がまったく読めなくて面白いです。この先どんな事実が判明していくのか、ワクワクしました。さらに絵柄がキレイな点も高ポイントです。
『【報告】とある未解決事件について』2巻	愛子が宗一郎との不倫関係を認めたことに驚きました。不倫関係のもつれが事件の原因だったというのはよくある話です。普通は疑われないようにするため、不倫関係であったとしても認めないものではないでしょうか。愛子があっさり認めてしまった為、逆に何かあるのではと気になりました。気になったのはラストシーンです。相対した人物が犯人だとしたら、怜は非常にヤバい状況と言えるでしょう。怜がどのように対応するのか注目したいです。
『【報告】とある未解決事件について』2巻	1巻の時点ではとても怪しい存在として描かれていた家庭教師の愛子先生ですが、一体どんな女性なんだろうとアレコレ想像をふくらませていたら、まさかの宗一郎との不倫疑惑が浮上して、非常に驚きましたし、宗一郎は良いお父さんに見えたのに…とショックを受けました。アリバイがあることで犯人ではないようですが、もし不倫が惨劇を引き起こした原因だとしたら、潔白な身だとは言えないよなと感じました。
『【報告】とある未解決事件について』2巻	ダイニングメッセージとか遺言とか、推理物といえばメッセージ。こちらでは「アイコニキヅイテ」というメッセージが出てきてミステリーファンとしてうれしくなりました。アイコとは愛子。家庭教師をしていた女性。関係ないわけないでしょう。アリバイがきちんとあるのが逆に怪しい。仲良さそうなのに実はこれほどまでドロドロした関係だったとは。
『【報告】とある未解決事件について』2巻	1巻の「アイコニキヅイテ」という充士郎からのメッセージのおかげで、愛子先生に対しておぞましくて恐ろしい人物だというイメージを抱いていたので、あっさり本人と対面できたことにびっくりしました。さらに犯人ではないことまで早々に判明して、事件の真相にたどり着いたと思ったらまた遠ざかるという展開が、読んでいて飽きなくて面白いと思いました。
『【報告】とある未解決事件について』3巻	刑事顔負けの怜の洞察力には驚かされました。本職の刑事たちでさえ気づかなかったことを、怜は一瞬で見抜いたのです。並外れた洞察力と言わざるを得ません。実際、傍にいた江崎は何も気づいていませんでしたし、怜が次々と仕組みを暴いていく様子には感動しました。気になったのは栄仙です。屋敷を出るとき、彼は妙な表情をしていました。怜の前では変なところはありませんでしたけど、何か引っかかるものがあるのでしょう。怜たちに対して何か行動を起こすのではないかと気がかりです。
『【報告】とある未解決事件について』3巻	3巻では疑惑が宗一郎と愛子先生からすっかり沙月へと移り、沙月が充士郎にひどいことをいたのではないかというまたしてもショッキングな要素が出てきて、10年前の越永家に充満していたのだろう闇の深さにゾッとした。充士郎はどんな気持ちで過ごしていたのか、過ぎ去った日々のこととはいえ想像するだけで胸が痛みました。

『【報告】とある未解決事件について』3巻	部屋を調べることで、また新たな発見が出てくる巻。越永栄仙の登場で、一気に話のスケールも大きくなりました。やっぱり大手玩具メーカーの創業者となると、家庭内でおさまるような話ではなく、さらに闇の部分が気になるようになります。個人的には話のスケールが大きい方がこの手のお話は面白いと思うので、次に期待が持てます。でも一番は、やはり部屋がポイントでした。
『【報告】とある未解決事件について』3巻	事件が起きたのは10年前な上、一家全員が亡くなっているので、基本的には家の中に残されている手がかりを見つけ出しては推理していく…という流れだと思っていたので、今回沙月の父親という新たな関係者が登場したうえ、沙月の父親の会社を宗一郎が継いだという屋ドラならどろどろとしたものがありそうな事実も判明して、一気に世界が広がった感じがしてがぜん面白くなってしまった。また、そんな立場で宗一郎は良く不倫できたなども思いました。
『【報告】とある未解決事件について』4巻	怜たちがメッセージを読み取っていくシーンに高揚しました。Nに似た記号から、よくあそこまで解き明かせたものだと感心します。刑事達はまったく気づいていなかったわけですし、怜の推理力には驚かされました。一方、充士郎は不憫だったなって思います。助けて欲しいというメッセージをこれだけ必死に送っていたのに、大人は誰も気づいてくれなかつたわけですから。誰にも気づいてもらえない感じながらもメッセージを送り続ける彼の姿を思うと、胸が締めつけられました。
『【報告】とある未解決事件について』4巻	1巻に出てきた一見幸せそうな家族のビデオ映像には、きっと良く見れば何か不自然な点があるんだろうなと思っていたのですが、それが何かは全く予想がついていなかったので、撮影している側の誰かがキーパーソンだと指摘された場面では、思わず「確かに！」と声をあげそうになりました。充士郎からのメッセージもまだまだ隠されていそうなので、今後もどう謎を解いていくのか楽しみです。
『【報告】とある未解決事件について』4巻	仲良し一家に見えて実は父親は不倫中。それを妻は知っていて。そんな中で息子としては勉強どころじゃないですよね。母親によるひどい仕打ちもあるし。家庭の姿は外から見えないというけれど、事件が起こるにはやはり理由があるってことです。やはりキーとなるのはホームビデオ。確かに、3人映っているからといって3人なわけがない。

漫画全巻の部屋

by (株)グリュックフ